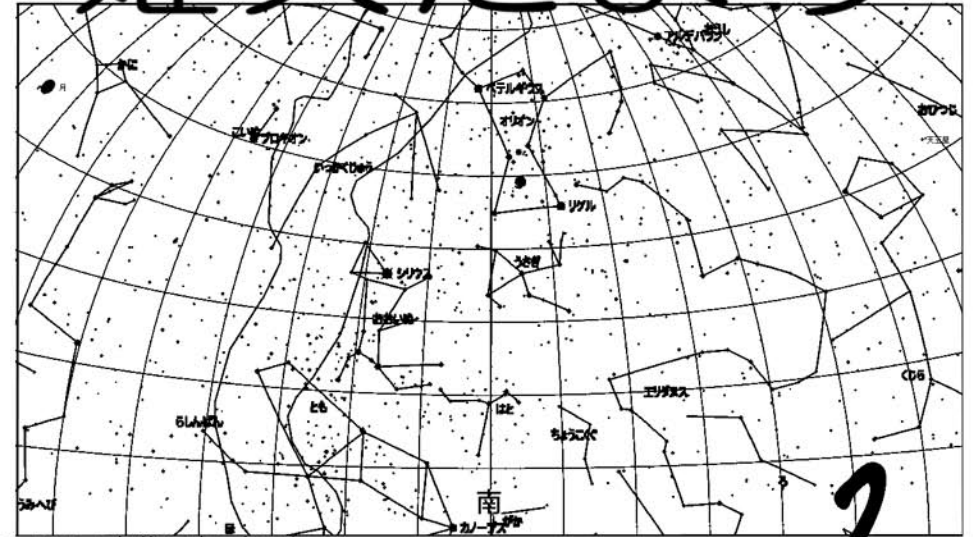


# 姫天だより

いつしか大雨がやみ洪水もおさまって、アララテ山に箱舟の船底がつくと、ノアはカラスを空に放しました。しかし、カラスは戻ってきませんでしたので、次に鳩を放すとすぐに戻ってきました。それから7日後にもう一度鳩を放すと、今度はオリーブの葉をくわえて戻ってきました。こうしてノアは水が引いたことを知り、動物たちと大地に降りました。このときのオリーブの葉をくわえた鳩が星座になったと言われています。

## ★今月のテーマ オリオン大星雲を観る会

オリオン座の三ツ星の下に縦に並んだ小三ツ星があります。オリオンがベルトに吊り下げている短剣とされていますが、この小三ツ星の真ん中の星をよく見ると、ほかの星のように一点で光り輝いているのではなく、ぼーっとした広がりをもって光っています。小さなものでもかまいません。双眼鏡をもっている方はこの場所をのぞいてみてください。この雲のように広がって光っているところがオリオン大星雲です。この場所は新しい星が生まれているところで、望遠鏡で見ると4つの星の集まりが見られます。トラペジウムと言う名前がついていますが、この星は生まれたばかりの赤ちゃんの星です。この星の輝きがオリオン大星雲を光らせています。向こうを向いた鳥、あるいは花にとまった蝶と呼ばれる姿を自分の目で見てみませんか？



2月15日午後8時の南の空

2月号  
2022

## ★今月の星座はと座

2月上旬の午後8時頃に真南に来るこの星座は、誰もが知っている冬の王様オリオン座に踏み潰された“うさぎ座”のさらに南に位置しています。真南に来ても地平線からの高さはおおよそ20度（体の分度器を使ってちょうどじゃんけんのパーの親指の先から小指の先ぐらいの幅になります）で、これといった明るい星もないのにWとMの文字をつなげてつぶしたような星の並びを見つけるのは思ったほど難しくはありません。

はと座はかつて“ノアのはと座”と呼ばれオリーブの葉をくわえた鳩の姿に描かれています。これは東隣にある“アルゴ座”（現在のとも座、りゅうこつ座、らしんばん座、ほ座）の船を、旧約聖書の「創世記」に記されているノアの箱舟に見たてて、その船から飛び立った鳩からきていと言われています。

物語のあらすじは、地上に悪人がはびこるのをみて、エホバの神は大洪水を起こして人間を滅ぼそうと考えました。しかし神は、ノアだけは正しい人間だったので、大洪水が起こることを告げ箱舟を作り、ノアの一家のほかにすべての動物や虫などを一つがいと食べ物をもって箱舟に乗るように命じました。

ノアは人々があざけり笑うのをよそに、大きな箱舟をつくり、家族と動物たちをつれて船に乗り込みました。やがて大雨が40日40夜、大地に降りそそぎ、高い山のとっぺんまで水の中に沈んでしまい、ノアの箱舟に乗せられたもの以外の生きものはすべて死んでしまいました。

## -次回の天文クラブ-

### ●2月の星を見る会

2月19日(土)午後7時30分より

オリオン大星雲の観察

冬の星座観察

### ●3月の星を見る会

3月5日(土)午後7時30分より

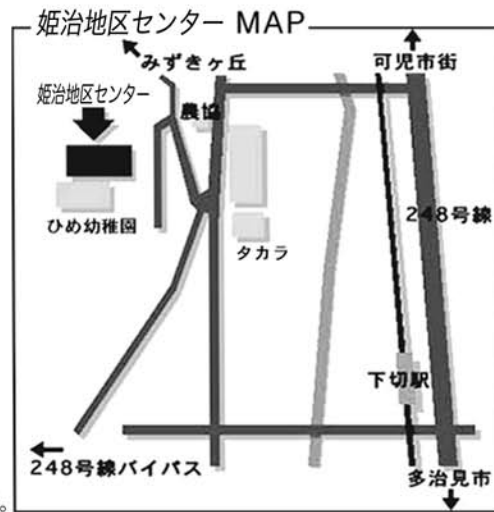
オリオン大星雲の観察

冬の星座観察

※観察時は冷えますので暖かい格好で来てください。

姫治地区センター  
岐阜県可児市下切 1530  
☎0574-62-0104

姫治天文台  
<http://himeziten.yu-yake.com/>



JR太多線下切駅より徒歩13分  
2022年2月1日発行

※観望会についてのお問い合わせは  
姫治地区センター (62-0104) まで